

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立稲野小学校

教育目標		人間尊重を基盤として 豊かな心と健康な体をもち 主体的・連帯性のある子どもを育てる ーいきいき なかよく のびのびと 笑顔あふれる 稲野小学校ー					
重点目標		・つきたい力を明確にし、「わらい」の提示、「ふりかえり」活動を工夫していく。 ・思考を深めるために、効果的にペア・グループ活動を取り入れていく。 ・「～したい」と一人ひとりが主体的に取り組むことができる授業づくりを進める。 ・「話す力」向上に向け、系統的に言語活動に取り組む。 ・自・他の意見をくべられるような場面設定を継続的に「行い」「聞く力」をつけていく。 ・新しい教科「道徳」において、子どもたちの道徳性を養う授業づくりに努めていく。 ・あいさつ・トイレのスリッパ揃え、下足箱のくつ揃えに取り組む。 ・仲間づくりや相談しやすい関係づくり、関係機関との連携を図っていく。 ・計画的、継続的に体力づくりに向けた授業づくりに取り組む。 ・ICT機器の効果的な活用を図る。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりをすすめる。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	・「基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。」 ・子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。 ・個々の教師の資質を向上させる。	・朝学習(読書・視写・漢字・計算・スピーチ)の時間を確保する。 ・反復練習のためのプリントを作成・活用し、基本事項の反復練習をする。 ・継続的に本読みに取り組み、適切に評価することにより理解につながる読みの力をつけていく。 ・本時のわらいを授業の初めに確認し、授業の終わりに目標が達成できたか確認する時間を持つ。 ・どのように振り返るが学年・学校全体で共通理解を図る。 ・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などのより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。	・朝学習の時間に基礎基本の学習を進めることができる。 ・反復練習により、既習内容を確実に身につける。 ・国語の本読みを毎日続け、すらすらと読むことができるようになる。 ・友だちの考えを自分から質問できるようになる。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」の項目で、肯定的評価が70% ・全ての教師が、年間10回以上授業を見る。	B ・コロナの影響で授業時間確保のため年度当初予定していた朝学習の内容ではなく通常の授業を行った。 ・授業中以外にも、朝学習や宿題等を通して基礎問題の反復練習に取り組む、基礎基本の力を身につけた。 ・宿題での取り組みで、他教科の理解力が高まった。 ・課題に対して子どもたちの疑問をめあてとして主体的に取り組めるように意識した。 ・今年はコロナの影響で校内研究授業を思うように行うことが難しく、状況に応じて2回開催することができた。 ・ビデオを撮ったりZOOMを活用したりして研修を行った。 ・パワーアップ研修では、タブレットを使用しスクールタクトの使用の仕方を学ぶことができた。	・来年度は計画通り、朝の学習の時間を(読書・視写・漢字・計算・スピーチ)として時間を確保する。 ・今後も基礎基本の定着を図るため、継続的に反復練習を行う。 ・引き続き音読の宿題を学校全体で取り組む。 ・教師間でめあてについて共通理解をはかり、意識して授業をデザインすることが必要。	
	思考力・判断力・表現力の育成	・「読む力」を向上させる指導法、教材を研究する。 ・「話す力」を向上させるための話し合いの形態を身につけさせる。 ・「聞く力」を向上させる。 ・「書く力」を向上させる。 ・「思考方法」をより多く身につけさせる方法を研究する。 ・児童一人ひとりが主体的に学習に取り組む態度を育てる。	・教材の本文を大切に読んで読ませる。 ・ペア、グループ学習の場を設定する。 ・スピーチの活動に取り組む。 ・教科を限定せず、様々な場面でスピーチの活動に取り組む。 ・聞いた後に質問をして、聞いていた内容を確認する。 ・自分の考え、友だちの意見を聞いて、変化したことを発表させる。 ・自分の考えを持ち、それを文に表す学習に取り組む。 ・学習でわかったことや振り返りを取り入れ、学習を積み重ねる。 ・授業の中で、比較・類推など思考する場面を増やす。 ・学習課題を工夫する。 ・子どもを引きつける魅力的な課題設定を行う。 ・自分たちの課題が生まれる課題設定を行う。 ・習得した知識・技能を使って発展した問題に取り組む課題設定を行う。	・本文を根拠として読み取ることができる。 ・友だちの考えと比較しながら、自分の考えを深めることができる。 ・課題に対して自分の力や友だちと協力して解決しようとする姿が見られる。 ・月に一度は、クラス全員の前でスピーチをする。 ・スピーチの到達目標を参考に活用している。 ・友だちの話の内容をしっかり聞き、理解することができる。 ・友だちの意見と自分の意見を比べることができる。 ・自分の考えを持ち、文に表すことができる。 ・学習でわかったことや振り返りを文に表すことができる。 ・主張・根拠・理由を明確にして発表できる。 ・課題に対して自分なりの考えを持つことができる。 ・「～したい、」という主体的な態度で課題に向かうことができる。 ・児童のアンケートの「授業はわかりやすい」の項目で肯定的評価が90%になる。また、保護者からの肯定的評価が90%になる。	B ・本文の言葉に着目して読み取ることができた。 ・コロナの影響でペアやグループ学習を十分に行うことができなかった。 ・スピーチ活動では、継続的に取り組むことができた。 ・発表のトライアングルを使って自分の考え、根拠、理由をもって話すことができた。 ・友だちの意見と自分の意見を比べながら聞くことができた。 ・聞いた後に質問しようとして聞くことができた。 ・自分の考えを文章にまとめて書くことができた。 ・学習でわかったことや、振り返りを単元の中で必要なときに取り入れ書くことができた。 ・主張・根拠・理由を明確にして発表することができた。 ・ズレから「考えたい」につながるよう意識することができたが、まだ十分ではない。 ・課題に対して自分なりの考えや疑問をもってそれをめあてにして学習を進めることができた。 ・それによって「～したい、」という主体的な態度で課題に向かうことができた。 ・児童アンケートで「授業はわかりやすい」の項目で肯定的評価が90%以上であった。	・引き続き、本文の言葉に着目し、思考を深めるような発問を仕掛けていく。 ・ペアやグループ交流以外にクラスで共有する時間を取るなど工夫して授業を組み立てていく必要がある。 ・意識して「聞くこと」はとも難しいので、意識できるような場の設定や取り組みなど積極的に取り入れ教師自身が継続して取り組む意識が必要。 ・振り返りの仕方など学校で共通したものを提案する必要がある。 ・今後も単語で話すのではなく文を意識して話すことが必要である。 ・教師間で研修を深めしっかりと共通理解をしていく必要がある。	
	読書活動の推進	・読書活動を充実させ、読書力・読解力・思考力の獲得を図る。	・「読書の記録」を書く時間を設定し、活用する。 ・読みかめの時間を増やす。 ・週2回15分の「朝読書」を継続する。 ・週末に読書を進める。 ・子どもたちのニーズを把握した上で、図書館の本を充実させていく。	・児童のアンケートの「読書をするのが楽しい」の項目で、肯定的評価が85%以上になる。 ・1週間に少なくとも2冊は本を読む。	B ・児童アンケートの「読書をするのが楽しい」の項目の肯定的評価は85%以上であり、目標を達成することが出来た。 ・低学年、中学年の児童は概ね、1週間に2冊以上本を読んでいたが、高学年は図書時間の確保でもともとあり、2冊以上は難しいようであった。	・引き続き、児童が楽しく読書ができるような環境を整えたり、イベントを企画したりする。	
豊かな心・健全な体	豊かな心を育む道徳教育の推進	・豊かな心を育む道徳教育の推進	・実生活に合った道徳、人権教育の授業に取り組む。 ・教科書(あかつき)を中心にして、ここからはたくさんなどの心シリーズを十分に授業で活用する。 ・「月目標」を設定し、全児童、全職員で取り組む。 ・冒険教育に取り組む。	・他人に対しての「思いやり」と自分の「あきらめない気持ち」をもって学校生活をおくることができる。 ・学期に1回は冒険教育を行い、子どもたちに協力することの大切さを学ばせる授業をする。	B ・学校朝礼の学校長の話や日頃の授業等をもとに思いやりや心を持つことを意識づけることはできた。また、「あきらめない気持ち」は児童によって取り組めている人と課題になっている人と差がある。 ・今年はコロナ禍の中で密を避けるため、十分なスペースの中での冒険教育は難しかった。 ・月目標を設定することで、普段から意識することができた。	・思いやる心については、引き続き学校朝礼や日ごろの授業などで意識できるよう取り組んでいき、「あきらめない気持ち」については、日ごろの授業や教室などで、意識や声かけが必要である。	
	豊かな心を育む情操教育の推進	・豊かな心を育む情操教育の推進	・音楽会・園工展の活性化 ・低学年への音楽・園工の専科指導 ・「今月の取組」の取り組み ・作品等の廊下掲示 ・ICT機器を利用した、情操教育の充実	・音楽会や園工展を通し、個性や多様性を認め合うことができる。 ・表面に自己表現することによって、自分の思いを伝えることができる。 ・低学年からの系統的、継続的指導により豊かな感性を育てる。	B ・歌唱や管楽器演奏、グループ学習の制約があった中、個人でできること(リズム遊び、音楽づくり、読書学習、鑑賞等)を多く取り入れた。音楽の知識理解を深めることができた。 ・学級単位での合奏は手洗いを徹底して行い、互いに聴きあってその良さを感じることができた。 ・園工展の開催ができなかったが、一部作品を廊下展示、絵画室展示できたのはよかった。 ・課題が制約される中で、道具を消毒したりしながら、主体的に取り組める課題ができた。	・自ら意欲的に表現したり、工夫したりする場面、課題が必要。 ・低学年からの系統的、継続的な指導方法について検討することが必要。(音楽・園工と) ・来年度の園工展開催に向けて、密にならないような展示方法や、入場制限などを考えていく必要がある。	
	いじめへの対応	・いじめの未然防止に努める。 ・いじめへの早期発見、早期対応を図る。	・日記やチェックシート等を活用し、子ども一人ひとりの状況とその変化を継続して把握する。 ・子どもと一対一で懇談する時間を設定する。(随時) ・毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 ・休み時間の様子を把握する。	・「なやみや不安があるとき、だれかに(先生や友だち・親など)に相談できる」の項目で、肯定的評価が80%以上になる。	B 「相談できる」に対する肯定的評価は、79%→78%とほぼ横ばいである。関係の分断を余儀なくされたコロナ禍で、この数字は喜んでいいように思う。 「相談できる」に対する肯定的評価は、79%→78%とほぼ横ばいである。関係の分断を余儀なくされたコロナ禍で、この数字は喜んでいいように思う。 いじめの認知件数については、国の基本方針に基づいて積極的にいじめを認知し、丁寧に指導していくと共通理解した結果、増加している。	アンケートで把握した事例については、丁寧に聞き取りを行い、まずは学年で情報を共有する。その際、必要に応じて「いじめ対策委員会」を開催し、改善策等を講じる。その後、職員会議等の機会に全職員で情報共有をする。	
	不登校への対応	・不登校傾向児童への早期対応を図る。	・保護者、担任、学校カウンセラーとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 ・担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。 ・夏季研修会のテーマを「不登校」として取り組む。	・早期対応に努め、不登校児童を出さないようにする。	B ・相談室があることで、なんとか登校できている児童もいる。その一方で、教師不在の場合の相談室の使い方がよく保護者や該当児童に対する相談室の意味づけや使い方について共通理解が必要である。	・「相談室担当」を生活部内の互選により決定し、校務分掌表に位置づける。 ①担当職員の児童への関わり方等に関する共通理解事項。 ②担当教員のシフト表作成。 ③担当教員と担任との連絡を密にする。	
開かれ信頼される学校	子どもの健やかな体づくりの推進	・自らすすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。	・体育施設の割り振り方の工夫や、学習内容を系統立てた「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 ・「わくわく(業間タイム)」を充実させる。 ・全てのクラスで、授業の初め5分間を体力向上の取り組みに充てる。 ・「パワーアップタイム」を充実させる。	・学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設定した目標を達成させる。 ・全員すすんで外で運動するようになる。 ・全てのクラスで、授業の初め5分間を体力向上の取り組みに充てる。	B ・今年度は複数種類の「がんばりカード」・サーキットトレーニングの資料をデータで作成することが出来た。 ・わくわく業間タイム、スポーツパッチの取り組みはコロナウィルス拡大防止のため実施できなかった。 ・コロナ状況下において子どもの体力低下が感じられた。 ・伊丹アスリートクラブ(外部コーチ)の活用は非常に良かった。	・引き続き「がんばりカード」を作成する。 ・コロナ状況下でも子どもたちが進んで運動に取り組むことが出来る取り組みを実施していく。	
	・学校情報の積極的な発信	・家庭と学校をつなぐため、学校情報を積極的に発信する。 ・「信頼される教師の育成」と「信頼される学校づくり」を推進する。	・ホームページを通して学校情報や学年からの情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」、「学年通信」を充実させ、学校の情報積極的に発信。 ・保護者からの相談や質問に素早く丁寧に対応する。 ・地域の行事にすすんで参加する。	・週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が90%以上になる。 ・保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」の項目で肯定的意見が85%以上になる。 ・「夏祭り」「ふれあい文化祭」など地域の行事等に教師がすすんで参加する。	B ・コロナの影響により、学校行事を行うことが難しくなったため、週一回以上、ホームページの更新を行い、学校生活の様子を発信してきた。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が83%と目標に達しなかった。 ・保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」の項目で肯定的意見が81%と目標に達しなかった。 ・地域の行事が中止となったため、参加することができなかった。	・来年度も感染状況等を見極めながら、行事実施について検討していく必要がある。そのため、ホームページの更新をより進め、学校生活について知っていただく機会を増やしていく。 ・保護者と直接出会う機会が少ない状況の中、電話や連絡帳等をおとしてきめ細かな対応を行うことにより、信頼関係の構築に努めていく。 ・感染状況等も見極めながら、地域との良好な関係を築いていく。	